



hida

広報

ひだ

町 木



第100号

肥田町自治会

肥田町
まちおこし
推進協議会

自治会長就任のご挨拶

自治会長 成 宮 克 美

この四月より自治会長を拝命させていただきましたが、そのような器でもなく身の引き締まる思いです。町民の皆様のご指導・ご協力をいただきながら役員一丸となり歩んで参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

私事ですが、この地に生を享け満七十年、ご恩送りの気持ちで「肥田の町に生まれ、育ってよかった」と思える町づくりに微力ながらお力添え出来ればと思います。

二〇二〇年からの新型コロナウイルス感染症拡大によるコロナ禍に於いて、自治会行事の殆どが止むを得ず中止となっています。その中で、皆さんには住みよい環境づくりのために除草作業、町内小河川清掃等に出役いただいています。今後とも、ご自宅周辺の美化活動等にご協力をお願い致します。今後、環境部以外の自治会行事開催につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見据えながら判断していきたいと思います。

また、このコロナ禍で多くの人は外出の機会や時間が制限され、家で過ごす時間が長くなりがちです。このことから、民生児童委員さんと自治会が情報を共有

しながら、一人暮らしのご高齢者の見守り・支え合う活動が必要に思っています。互助の立場から町民皆様のご協力を宜しくお願い致します。

長引くコロナ禍の日常生活のなかで、先日各戸にお届けしました花苗を育てていただき、ほんの少しでもお役に立てれば幸いです。

今回の「広報ひだ」の発行は記念すべき一〇〇号です。昨年度より発行の担当が自治会となりましたが、これも初版発行から今日まで諸先輩方のご努力の賜です。他所の方からも「素晴らしい広報作りをされていますね」と聞いています。今後一つひとつ号数を重ねられますよう期待します。

末筆ながら、町民皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ就任のご挨拶と致します。



まちおこし推進協議会

執行体制決まる

新型コロナウイルスによる影響が懸念され、まだまだ油断できない時期ではありますが、役員の皆様には、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

自治会長

副自治会長

総務会計部長

環境部長

福祉部長

文教部長

体育部長

農事改良組合長

副改良組合長

改良組合会計書記

監事

まちづくり委員長

自警団長

福寿会会長

女性会会長

中学校委員

子ども会会長

ひだまり会長

環境ボランティア肥田の会

ファーム肥田代表理事

民生児童委員

成宮 克美	元持 正行	加藤 嗣也	藤野 雄士	矢守 貫一	森野 洋介	鶴野 真明	大村 吉継	鹿島 能孝	成宮 敏和	山本 長孝	成宮 一郎	薩摩 大士	成宮 一郎	松村 幸恵	薩摩 英雄	元持 亜紗子	松枝 義人	薩摩 四郎	辻野 久和	森野 美佐子
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------

農事改良組合長

就任にあたって

農事改良組合長 大村 吉 継

町民の皆様には、平素より改良組合の諸行事にご協力賜り、厚くお礼申し上げます。

四月より改良組合長を務めることになりました。行き届かぬことが多々あると思いますが、諸先輩はじめ町民皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年は、八月のお盆に大雨による影響で、新川は氾濫水位まで上がりました。上田の農道は、浸水しましたが幸い甚大な被害には至りませんでした。

さて、昨今、農業従事者の高齢化や担い手の減少が進んでおりますが、当町においては、農地集積及び農業機械の大型化により、作業効率よく施工されているのが現状です。

しかし環境保全活動である野溝掘は、組合員皆様の手作業によりゴミや流土の撤去が必要不可欠であります。今後ともよろしくお願い致します。

コロナ禍が続く中ですが、改良組合事業に頑張っており組んでまいりますので皆様のご協力をお願いいたします。





小学校



薩摩 琴さん(大土さん・真理子さん)



将来の夢は自転車の選手になる事です。
小学校では給食が楽しみです。勉強と体育も頑張りたいです。
よろしくお願いします。

鵜野 隼大朗さん(稔明さん・愛さん)



ぼくは、おおきくなったら、ドラえもんをつくるひになりたいです。ドラえもんをつくって、いっ

しょにあそびたいです。しょうがつこうにいったら、きゅうしょくでながてなものがでても、がんばってたいです。



しょうがつせいになって
がんばりたいこと

元持 旺介さん(亜紗子さん)



ぼくは4がつからしょうがつ1ねんせいになりました。そして、しょうがつせいになったので、すぽーつしょうねんだんのやきゅうぶににゅうだんしました。
ずっとおにいちやんのれんしゅうやしあいのすがたをみていたので、にゅうだんできてとてもうれしいです。まいしゅうががんばってれんしゅうにいつています。
れんしゅうをがんばって、もつともつとうまくなつてはやくしあいにでられるようになりたいです。

薩摩 葉月さん(恵治さん・由紀子さん)



わたしは、しょうがつこうにいつておともだちをたくさんつくりたいとおもいます。いまは、ひるやすみにそとでもだちとあそぶのがだいすきです。さかあがりやのぼりぼうであそんでいます。
べんきょうは、ひきざんをがんばりたいです。
たいいくやおながくもだいすきです。おおきくなったら、パンやさんになり

たいです。おいしいパンをつくって、みんなにたべてもらいたいです。

中村 瑠那さん(公彦さん・薫さん)



小さい頃から恥ずかしがり屋なところもあり、新しい場所に慣れたり、知らないお友達と仲良くなるのにちよつと時間がかかってしまうタイプです。
家の中では弟と一緒に遊んでいます。時には厳しくしたり、悲しんでいる時は優しくあやしたりと頼もしいお姉ちゃんです。
髪をとかしたり、くくったりすることが好きなので、将来の夢は美容師になることです。



中学校

松山 真愛さん(慶和さん・蘭さん)



私は、好きな教科は、音楽です。理由は、演奏などをしてしていると、わくわくして楽しいからです。中学校でがんばりたいことは、勉強や部活をがんばりたいと思います。
将来は、薬剤師になって、いろんな患者さんを元気にしたいです。



古の肥田随想三題

- 一、万葉秀歌 松村
- 二、肥田城下町栄ゆ 高瀬
- 三、古民家に住んで 青柳

万葉ことば「さきくませ」

ひだ・資料館ガイド 松村 江梨子
万葉集に由縁ある町で、万葉集に親しむ機会に恵まれました。

その日本最古の歌集には、自然の豊かさ、季節の移ろい、大切な人への思いなど、日本人の繊細な感性が、深みのある言葉で綴られています。今日にも響く万葉ことばから、一つ取り上げさせて頂きます。

「さきく」幸くと書く「幸」の意味です。「さきくませ」は「幸せでありますように」「ご無事で」などの意味で使われています。

☆天の川の歌より（二〇六九番・作者不詳）

天の川 瀬ごとに幣奉る

心は君をさきく来ませと

「訳」天の川の渡り瀬毎に神にお供えるのは、あなた様が無事でいらつしやるようにと祈る気持ちからです。

☆平成十六年の歌会始で上皇后様が詠まれた御歌

幸くませ 真幸くませと

人びとの 声渡りゆく 御幸の町に

日本の伝統文化が心に染みてまいります。そして、世界中の人々が「幸くませ 真幸くませ」と祈りたいと思います。

城下町肥田栄ゆ

ひだ・資料館顧問 高瀬 俊 英

肥田城主は高野瀬代々（鎌倉時代から室町時代にかけて何代も）と、蜂屋、長谷川です。肥田城は最初は木造づくり、後になると鉄砲、火薬に対応できるよう土壁、瓦、石垣の城になりました。

ところが城下町づくりは、安土、八幡での城下町づくりを経験した蜂屋、長谷川時代と考えられます。

肥田城を取り巻いて、小字東町、同西町（上町）と登町と短冊型につくられました。蜂屋、長谷川氏とともに一代限り、肥田滞在期間は短く、江戸時代に入ると、すぐに城、石垣は武士たちとともに彦根城建設に集められ、

肥田城下町は在住農民、商人、手工業者ら庶民の手に委ねられました。

城と武士のいない城下町、それが肥田城下町の実態でした。

小字三町を貫く道路は今も昔も変わらず五・五・七m幅と広く（但し三町とも出入口は極端にせま



く幅半分）他の農村ではみられません。大道の両側では、米屋五軒、醤油・塩店三軒、布衣類店三軒、酒屋二軒、駄菓子屋二軒、材木店、下駄屋、麴屋、桶屋、簾屋、床（理髪）屋、竹屋各一軒と、百軒の在所に二十軒以上の店が軒を並べていました。その中には藤野儀三郎店のようなスーパーマーケット店も存在しました。

近からの買い物客も多く、土橋（石橋）から肥田への道、中山道から三津を通り肥田への道、楡から肥田への道、稲里・金沢から、稲部から、川原から肥田への道もいずれも「ひだ街道」と呼ばれていました。武士のいない城下町肥田が大いに栄えていた証しです。

古民家に住んで

ひだ歴史ガイド 青柳 麻美

百五十年程前につくられたという市指定文化財でもある建物、そしてとても静かで緑豊かな美しい田園風景に心惹かれ、七年前に肥田に移住しました。



古い物件ということで、引越し前は少し不安に感じていました。しかし、実際

に暮らしてみると風土に適していて想像していた以上に快適で過ごしやすく、心配は杞憂に終わりました。

建物を通じて昔の人の知恵から学ぶことが多いです。なるべくオリジナルに近い状態で大事に保存しなくてはと考えています。文化財のことで高瀬様とお話するうちに歴史深い肥田の郷土史にも関心を持つようになりました。

四季の繊細な移り変わりを感ずることが出来る生活は、花鳥風月を愛でるゆつたりとした心持ちでいることが出来ます。お米や野菜、日本酒と美味しい食べ物に恵まれている地域ということにも感謝しています。住むにつれ、肥田町一帯を含めたこの場所のすばらしさを毎日実感しています。

随想 故郷に想う

兎追いしあの山、小鮒釣りしかの川、自然の美しさ、あの町のあの人の優しさ、家族の温もり、友との語らい励まし合いと生きる力をしっかりと与えてくれた故郷、その温もりを胸に抱いて私の今がある。誰にも故郷がある。思うに、故郷とは、心の温かさを育んでくれたところ。また長い人生の節目、節目では、自分に勇気、元気を興してくれたところ、振り返れば心の故郷でもある。私には、赴任生活の舞台で幸いにも五つの故郷を持つことが出来た。

私は京都の稲荷神社の近くで生まれて育ち中学校の時、あの戦争疎開で父の故

郷の肥田の町に転じてから今日まで経過、就職では京都に入り、営業人生で各地を移動して、むしろ、働いている拠点の町が故郷、心の故郷となり熱く燃えて過ごしてきたと思う。心の故郷が幾つも持っていて幸せだと思っています。

その故郷をひも解いてみると、先ず京都、生まれてから中学一年までの京都は、厚い歴史と伝統のある町、その誇りに囲まれて住んでいる人々、はんなり京都弁も緩やかで上品、一方での気の強さは、恵まれた神社仏閣に造詣深く、そこで与えられた「気」を大切に育ててこられたことにあると思える。だから一見頑固なところも見られるが、一度親しくなると親身になって応援してくれるそんな京都人気質は、私からは離れず営業人生の面にも大きい力になってくれた。

ついで大阪、とにかく街を歩く人の足の速さには先ず驚く。無駄な間が嫌い、時間を大切に。例えば訪問しても、普通はその日のお天気具合から世間の動きなど触れて柔らかいアプローチから入るのは好まない、即、「儲かりますか」との商談ストレートを好む。それと、どの店も暖簾を尊び、社長の経営方針が真直ぐに直面する担当者からも感じ取れるところにも特徴がある。「三方よし」の近江商人出の会社も比較的多く、ソロバンと人情も確かな商いの町であり存分に動けた。昭和五十一年 一九七六一九八一

次いで転じての故郷の名古屋は、総じて上手く商いしている会社は、顔は東京の方を向けて、頭は関西を向き、即ち常

に新鮮な情報は東京からキャッチし、気持ちには「儲かりますか」の大阪の商を体している。だから堅実でしっかり財を蓄えて信用度は極めて高い。地元トヨタとその経済効果の恩恵も受けていると受け止めている。

名古屋は、周辺の郊外都市からの通勤の人が極めて多く帰り時間も早くなり、当時名古屋市内の商店は午後八時には店を閉めるところも多く単身赴任生活で苦労ばかり。名古屋支店でも社員の方の殆どが転勤族、だから、地域の文化、経済の勉強、住民気質などの勉強も力が入った。この時代は経済成長の昭和中期一九八一―八三

さて、故郷東京は、最初の転勤は一九六五年、ここでは関西の「儲かりますか」商法の風の注入にポイント、三十四歳。一九八八年に再度、東京に責任者として赴任の機会が生まれた。

何と言っても東京は、いわば全国の地域からの人々の合衆国、誰が頭を出すか競争は熾烈、商も、中央ということでの会社でも人材と情報がうまく機能されて、常に「知る学ぶ」「創る」そして「成果を皆で享受する」という企業風土も多く感じられ、誰もが商社マンのような姿勢で権限移譲も感じられ、東京の風に圧倒されないように気を引き締める場面に会って来た。私も自らは、発展する企業としての立ち位置を強く押し出す空気の醸成に努めて来た。

そのような様々な地域、そしてその市場で戦っている人々との交流、支援や指導を通して私の心と身体の筋肉をつけて

来られた。厳しさと温かさの風の舞う様々な私の故郷の永い人生で、得られたものは、勇氣、元氣、そして自分を包んで大きく育ててくれた、正しく「故郷」があったと受け止めている。会社生活を四十二年勤め挙げて第二の人生を考えたとき、私はここで、親父が終着駅は是非とも故郷のお役に立ててくれの言葉を思い出し、早速に、「まちづくり」に、再度「猛烈はビューティフル」の気持ちで参加、町づくりのテーマを、肥田の町に合った「自然と人間と歴史の共生するまちづくり」として掲げ、培ってきた「人間大好き」の自分らしさを活かして町の人たちとも一体となつての今日があり、改めて町の皆様のご理解とご支援に深い感謝の気持ちでいっぱいです。どちらを向いても有難う。

故郷さん有難う。

Y生

お 悔 み

安らかに眠りください

藤野 良枝さん 享年八十八歳

(令和四年一月十三日逝去)

藤野 吉子さん 享年九十五歳

(令和四年二月五日逝去)



編 集 後 記

今回「広報ひだ」が一〇〇号を迎えることができました。

平成八年に初めて第一号が発行され、それ以降二十六年間、欠けることなく続けてこられたのも町民の皆様のお陰です。また、記念すべき一〇〇号に携われたことを大変光榮に思います。

近年ではインターネットの利用が一般化し、ソーシャルメディアやSNSといった言葉をよく耳にするようになりました。何でもインターネットで調べられる世の中になりましたが、「広報ひだ」ではこれからも伝統を引き継ぎながらも時代とともに変化していく広報誌の発行を、町民の一人として楽しみにしていきます。

これからもご意見・ご感想の程、宜しくお願い致します。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

次回「広報ひだ」は来年一月発行の予定です。

元持 正行